

平成21年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立瑞穂野南小学校

平成21年度に実施した「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、保護者や地域の皆様にご理解とご協力をいただきながら、学習指導の工夫・改善に生かしていくため、以下の通り公表します。

I 調査の概要

1 目的

- ア 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図り、併せて児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげる。

2 調査期日

平成21年4月21日（火）

3 調査対象 第6学年

4 調査内容

- (1) 教科に関する調査
 - ① 国語 A、算数 A （主として「知識」に関する問題）
 - ② 国語 B、算数 B （主として「活用」に関する問題）
- (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 - ① 児童に対する調査
 - ② 学校に対する調査

5 本校の参加状況

児童数

- ① 国語 A 13人、 国語 B 13人
- ② 算数 A 13人、 算数 B 13人

6 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものではないことから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等をわかりやすく示し、指導の工夫・改善に生かすために分類・区分別の平均正答率を公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果の全てを表すものではないため、「全体的な傾向」、「分類・区分別の傾向と課題」、「指導の工夫・改善の方向性」などの分析を併せて記載した。

※ 用語について ○平均正答率…平均正答数を百分率で表示。

- ・ 学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式、設問ごとの平均正答率は、それぞれの正答児童数を全体の児童数で割った値の百分率
- ・ 平均正答数は、児童の正答数の平均

II 調査結果の概要

【国語】

《全体的な傾向》

- ・ 国語 A（知識）の平均正答率は、全国平均、栃木県平均を大きく上回っている。全 18 問中の正答数分布状況は、全国では中央値が 13 であるのに対し、本校では 14 である。
- ・ 国語 B（活用）の平均正答率も、全国平均、栃木県平均を大きく上回っている。全 10 問中の正答分布状況は、全国では中央値が 5 であるのに対し、本校では 6 である。

国語 A	児童数	平均正答率(%)
本校	13	77.8
栃木県（公立）	18,299	68.8
全国（公立）	1,137,808	69.9

国語 B	児童数	平均正答率(%)
本校	13	60.8
栃木県（公立）	18,288	49.9
全国（公立）	1,137,598	50.5

《分類・区分別集計結果》

（1）国語 A（設問数 18 問）

分類	区分	設問数	平均正答率(%)		
			本校	栃木県	全国
学習指導要領 の領域等	話すこと・聞くこと	1	76.9	67.7	68.0
	書くこと	4	96.2	86.2	85.4
	読むこと	2	84.6	69.5	68.7
	言語事項	12	69.9	62.3	64.2
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	1	76.9	67.7	68.0
	話す・聞く能力	1	76.9	67.7	68.0
	書く能力	4	96.2	86.2	85.4
	読む能力	2	84.6	69.5	68.7
	言語についての知識・理解・技能	12	69.9	62.3	64.2
問題形式	選択式	5	90.8	81.1	80.1
	短答式	12	72.4	63.8	65.9
	記述式	1	76.9	67.7	68.0

※1 つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

【話すこと・聞くこと】

●課題があるもの

- 領域の平均正答率は 76.9% で全国平均より 8.9% 上回っている。

【書くこと】

- 領域の平均正答率は 96.2% で、全国平均より 10.8% 上回っている。小問ごとの正答率を見ると、特に文章の内容に合わせて小見出しを選ぶ 3 問では、正答率 100% となっている。

【読むこと】

- 領域の平均正答率は 84.6% で、全国平均より 15.9% 高い。特に段落の内容を的確に捉えられるかを問う設問で、正答率 100% となっている。

【言語事項】

- 領域の平均正答率は 69.9% で、全国平均より 5.7% 高い。特に漢字を書くこと、ローマ字で書く、ローマ字で書かれたものを読むことに関する設問での正答率が高い。
- 書写に関する事項についての正答率は 15.4% で、全国平均を 17.9% 下回った。

(2) 国語B (設問数 10 問)

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	栃木県	全国
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	5	73.8	60.5	61.3
	書くこと	2	7.7	13.7	14.5
	読むこと	3	74.4	56.4	56.5
	言語事項	2	73.1	59.1	59.7
評価の観点	国語への関心・意欲・態度	6	60.3	45.5	46.0
	話す・聞く能力	5	73.8	60.5	61.3
	書く能力	2	7.7	13.7	14.5
	読む能力	3	74.4	56.4	56.5
	言語についての知識・理解・技能	2	73.1	59.1	59.7
問題形式	選択式	2	73.1	64.3	65.8
	短答式	2	50.0	48.8	48.7
	記述式	6	60.3	45.5	46.0

【話すこと・聞くこと】

- 領域の平均正答率は 73.8% で全国平均より 12.5% 上回っている。

【書くこと】

- 領域の平均正答率は 7.7% で、全国平均より 6.8% 下回っている。
- 正答率 0% であった設問の解答パターンを見ると、全員が同じパターンで誤答している。
- 事象や意見などを関係付けながら書く設問でも、全国平均を若干下回っている。

【読むこと】

- 領域の平均正答率は 74.4% で、全国平均より 17.9% 高い。特に筆者の考えを要約して記述する設問では、全国平均を大きく上回っている。

【言語事項】

- 領域の平均正答率は 73.1% で、全国平均より 13.4% 高い。

※ 国語Bにおいて、本校ではどの設問も無解答率が0%であったのが特徴的である。全国平均で見ると、最大20%が無解答であった設問があるにもかかわらず、本校児童は最後まであきらめず、解答しようと努力したことが伺える。記述式の設問での正答率も全国に比べて高い。

《国語に関する児童の質問紙調査の状況》

- 「国語の勉強は好きですか」に対し、全員が「好き」、「どちらかといえば好き」と答えており、全国平均の 58.3% を大きく上回っている。
- 「国語の勉強は大切だと思いますか」に対しても全員が「大切」と回答している。(全国平均は「大切」60.6%、「どちらかといえば」29.7%)
- 「国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか」に対して「はい」「どちらかといえば」と回答した割合は 92.3% と、全国平均の 56% を大きく上回っている。
- 「国語の授業で自分の考えをかくとき、考えの理由がわかるように気をつけて書いていますか」に対し、「はい」、「どちらかといえば」と回答した割合は 92.4% で、全国平均の 66.2% よ

26.2%上回っている。

- 毎日 30 分以上読書をしている児童の割合が本校では 76.9%であり、全国平均の 35.2%を大きく上回っている。また、図書館の利用率も全国に比べ高い。
- 原稿用紙 2～3 枚の作文を書くことや、自分の考えを説明したり文章に書き表したりすることを難しいと感じるかどうかという設問に対し、難しいと答えた児童の割合が全国に比べ少ない。

《国語における今後の指導の方向性》

【話す・聞く】

- ・ 話し合いを適切に進行する力をより高めるために、今後も多様な形態の話し合いの場を意図的に設定する。

【書くこと】

- ・ 国語 B の【書く】の領域のみが他に比べて低いことから、文章を要約したり、字数や様式などの条件に即して書き換えたりといった活動はもとより、論理的に説明する、説明の順序を考え話の流れを組み立てるといった活動などの機会を増やし、書く能力を育てていく。

【読むこと】

- ・ 2つの文章を比べて読んだり、文章と図やグラフ、数字など複数の資料を関連づけて読み取ったりする活動を行うことで、論理的思考力を育てる。

【言語事項】

- ・ 新出漢字が確実に身に付き活用できるよう、習った漢字を他教科の学習や日常生活の中で積極的に活用していく。
- ・ 文字の大きさやバランスなど書写に関する事項については、書写の時間だけではなく、国語及び他の教科においても細やかに指導していく。

【算 数】

《全体的な傾向》

- ・ 算数 A（知識）の平均正答率は、全国平均、栃木県平均を大きく上回っている。全 18 問中の正答数分布状況は、全国では中央値が 15 であるのに対し、本校では 17 である。
- ・ 算数 B（活用）の平均正答率も、全国平均、栃木県平均を大きく上回っている。全 14 問中の正答分布状況は、全国では中央値が 8 であるのに対し、本校では 10 である。

算数 A	児童数	平均正答率(%)
本 校	13	93.2
栃木県（公立）	18,299	78.9
全 国（公立）	1,137,844	78.7

算数 B	児童数	平均正答率(%)
本 校	13	67.6
栃木県（公立）	18,281	53.3
全 国（公立）	1,137,624	54.8

《分類・区分別集計結果》

(1) 算数 A（設問数 18 問）

分類	区分	設問数	平均正答率(%)		
			本校	栃木県	全国
学習指導要領 の領域等	数と計算	9	92.3	83.2	82.8
	量と測定	3	97.4	77.5	78.5
	図形	3	92.3	81.2	81.3
	数量関係	3	92.3	65.2	64.2
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	0			
	数量や図形についての表現・処理	1 2	92.3	77.6	77.7
	数量や図形についての知識・理解	6	94.9	81.6	80.8
問題形式	選択式	5	92.3	80.2	76.7
	短答式	1 3	93.5	78.4	79.5
	記述式	0			

※1 つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について、各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

【数と計算】

●課題があるもの

- 領域の平均正答率は 92.3% で全国平均より 9.5% 上回っている。
- 小数の除法において、商やあまりの小数点の位置を間違えた児童が多く見られた。

【量と測定】

- 領域の平均正答率は 97.4% で、全国平均より 18.9% 上回っている。

【図形】

- 領域の平均正答率は 92.3% で、全国平均より 11% 高い。

【数量関係】

- 領域の平均正答率は 92.3% で、全国平均より 28.1% 高い。

(2) 算数B (設問数 14 問)

分類	区分	対象設問数 (問)	平均正答率 (%)		
			本校	栃木県	全国
学習指導要領 の領域等	数と計算	6	61.5	54.0	55.8
	量と測定	6	75.6	58.1	59.9
	図形	4	69.2	55.1	56.4
	数量関係	4	73.1	55.8	56.8
評価の観点	算数への関心・意欲・態度	0			
	数学的な考え方	10	59.2	44.3	46.1
	数量や図形についての表現・処理	4	88.5	75.8	76.5
	数量や図形についての知識・理解	0			
問題形式	選択式	2	92.3	68.4	68.9
	短答式	7	81.3	61.9	63.7
	記述式	5	38.5	35.2	36.8

【数と計算】

○ 領域の平均正答率は 61.5% で全国平均より 5.7% 上回っている。

【量と測定】

○ 領域の平均正答率は 75.6% で、全国平均より 15.7% 上回っている。

【図形】

○ 領域の平均正答率は 69.2% で、全国平均より 12.8% 高い。

【数量関係】

○ 領域の平均正答率は 73.1% で、全国平均より 16.3% 高い。

- ※ 算数Bにおいて、全国平均で見ると無解答率が高い設問もあるが、本校では、14問中3つの設問について一人ずつ無解答があった他は、全て何らかの解答を記入している。最後まであきらめずに答えを導き出そうと努力した姿が伺える。
- ※ 評価の観点別に見ると、「数学的な考え方」、「数量や図形についての表現・処理」いずれも10%以上全国平均を上回っている。
- ※ 記述式の設問で、テスト後に口頭でよく説明でき、正解したかと思われていた児童数名も、誤答となっていたことから、採点の基準となるキーワード等が抜けていたか、あるいは文章表現が稚拙だったかと考えられる。国語の結果も併せて考えると、必要な情報を的確に選び、論理的に説明する力が今一つであると考えられる。

《国語に関する児童の質問紙調査の状況》

- 「算数の勉強は好きですか」に対し、全員が「好き」、「どちらかといえば好き」と肯定的に答えており、全国平均の66.2%を大きく上回っている。
- 「算数の勉強は大切だと思いますか」に対しても全員が「大切」と回答している。(全国平均は「大切」70.4%、「どちらかといえば」21.5%)
- 「算数の授業の内容はよく分かりますか」に対し、「よく分かる」と回答した児童は92.3%(全国平均44.6%)、「どちらかといえば」も合わせると100%である。
- 「算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思いますか」に対して「は

い」と回答した割合は 92.3%（全国平均は 52.4%）「どちらかといえば」と回答した児童を合わせると 100%であり、新しい課題に積極的に取り組む気質が伺える。

- 「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対し、「はい」、「どちらかといえば」と回答した割合は 100%で、全国平均の 64%を 36%上回っている。
- 「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対しては全員が「はい」と回答しており、全国平均の 63.8%を大きく上回っている。
- 「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」に対して、「はい」と回答した割合は 76.9%（「どちらかといえば」も合わせると 92.3%）で、全国平均の 42.8%を大きく上回っている。日々の学習の中で、自分たちの力で課題を解決し、公式を導き出す活動を多く取り入れていることが影響していると考えられる。
- 「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか」に対し、全員が「はい」（84.6%）、「どちらかといえば」（15.4%）と答えており、全国平均を大きく上回っている。

《算数における今後の指導の方向性》

【数と計算】

- ・ 比較的誤答の多かった小数の除法については、整数の除法から除法の計算の仕方を復習した上で、小数の除法の仕組みを再度確認し、除法の仕方の説明をする活動と計算練習を繰り返す行う。

【量と測定】

【図形】

【数量関係】

どの領域でも全国平均を大きく上回り、算数の学力は十分に身に付いていると考えられる。今後、小学校の履修内容を終了すると同時に、これまでに習ってきた内容の総復習を行い、より確実な知識の定着を図る。さらには、それぞれの内容の系統性を意識し、より多様な考え方を導き出すような活動を取り入れ、1～6年生の学習内容を系統立てて捉え多面的に考えられるようにしていく。

また、考えを分や式を用いて説明する活動をより多く取り入れ、必要な情報を選び、論理的に説明する力をさらに伸ばしていく。

【質問紙調査】

《主な状況》

- 「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがありますか」に対し、全員が「はい」と答えている。また、「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか」に対し、「はい」が53.8%（全国平均23.2%）、「どちらかといえば」が46.2%（全国平均50.9%）と、全員が肯定的に回答し、全国平均を約25%上回っている。
- 「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標をもっていますか」に対しても肯定的割合が高く（いずれも92.3%）、全国平均を大きく上回っている。
- 「学校で友達に会うのは楽しいと思いますか」に対して全員が「はい」「どちらかといえば」と回答している。
- 「学校で好きな授業がありますか」に対して全員が「はい」と回答している（全国平均78.7%）。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して「はい」、「どちらかといえば」を合わせた肯定的回答率は100%で、全国平均の54.7%を大きく上回っている。また、「家で学校の宿題をしていますか」に対しては全員が「はい」と回答している。家庭での自主学習時間も毎日最低でも1時間以上している児童の割合が84.6%（全国平均は57.2%）、残る15.4%の児童も1時間弱は自主学習に取り組んでいる。土曜日や日曜日の平均学習時間も全国に比べ長い。これらの結果から、家庭学習スタンダードにより、計画的な家庭学習の習慣が身に付いていると考えられる。
- 毎日同じくらいの時刻（遅くても7時前までに全員）に起き、朝食を家族と一緒に食べ、夜も8時間以上寝ている割合が非常に高く、望ましい生活習慣が身に付いていると考えられる。
- 一日あたりのゲームの時間は2時間以内が23.1%、1時間未満が38.5%、全くしないが38.5%で、全国に比べ非常に短くなっている。全くしない割合も高い。
- 一日あたりのテレビ(ビデオ・DVDを含む)視聴時間が全国に比べ長い。
- 「地域の行事に参加していますか」の肯定的回答率は84.6%と全国平均より22.2%高い。また、「今住んでいる地域の歴史や自然について関心がありますか」に対しても76.9%が肯定的に回答しており、全国平均の47.2%を大きく上回っている。「新聞やニュースなどに関心がありますか」には92.3%が肯定的に回答し、全国平均より24.3%高い。地域や社会への関心が高いと言える。
- 「学校のきまりを守っていますか」「友達との約束を守っていますか」「人が困っているときは進んで助けていますか」「近所の人にあったときはあいさつをしていますか」「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」等の設問に対しては、全員が肯定的回答をしており、全国平均を上回っている。
- 家の人に学校の様子を話したり、家の仕事を手伝ったりする児童の割合が高い。